

楽しみながら実践する地域活性化

歴史・人物を紐解き、遊び感覚で地域に関わりあう

矢口 正武 (NPO 法人「元気・まちネット」代表・地域活性化伝道師)

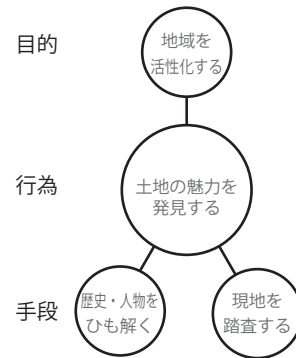
地方の地域活性化を目的とし NPO を立ち上げた矢口正武氏に、活動内容とともに、まちづくりやまちおこしにおいて重きを置いている点や課題、可能性を聴く。現地を訪れ、地元の人々とのコミュニケーションを図りながらの「実践」から導き出された考えや思いを伺う。

プロフィール:

山形県生まれ。日本技術開発(株)、(株)田中造園土木設計室(現(株)エキープエスパス)、(株)爽環境計画を経て、NPO 法人「元気・まちネット」を設立。地域資源を活かしたまちづくり活動を行っている。



技術と目的との関連マッピング



——NPO 法人「元気・まちネット」を立ち上げるまでは、どのような経験を積まれていたのでしょうか。

矢口: 総合コンサルで 10 年、造園設計事務所 で 30 年、約 40 年間は設計業務に携わってきました。その経験を活かし、10 年前から「まちおこし、まちづくり」を中心とした NPO 団体を立ち上げ、現在に至ります。

——「元気・まちネット」では、まちおこしやまちづくりをどんな方法で取り組んでいるのでしょうか。

矢口: 地方と都市の格差が広がる中で地方の活性化を考えたとき、その地域にしかない資源を見つけ出そうと活動を開始しました。活性化の手段については、①スポーツ及び音楽イベント、②自然、歴史・文化、人物、③啓発活動(勉強会、シンポジウムなど)を、NPO 活動の柱とすることにして

います。実績としては、長野県内で 2000 年から、夏場のスキー場を活用したスポーツイベント(アドベンチャー大会、スイム&ラン大会、トレイルランニング駅伝大会)などを自主運営して、1 大会あたり 300 万円の経済効果を上げることも出来ました。2009 年に開催された「第一回 地域活性化学会」にて発表も行っています。

また、山形県内においては 2006 年から自然、歴史・文化、人物にフォーカスしたまちおこしを展開しています。県は大きく 4 つのエリアに大別されますが、この 4 つのエリアを連携・連動させることを目的に、山形を縦断・横断した 3 人の歴史上の人物「源義経」「松尾芭蕉」「イザベラ・バード」にフォーカスしました。点から線へ、線から面へと展開する観光による地域活性化を目指しました。

——人物にフォーカスしたまちおこしやまちづくりは、他ではあまり耳にしない特徴的な手法だと思えます。多く方にとって分かりやすく受け取ってもらえそうです。

矢口: 非常に効果的な切り口だと思っています。人物を取り上げようと思ったのは、その土地を知らない他者から見ても地域の歴史的背景や話題性に富んでおり、また将来にわたって語り継いでいけることが理由です。地域の誇りになる人物を取り上げることは、地元の人々にとっても誇りになります。みんな自分の地元を自慢したいんです(笑)。人物の過去を掘り下げ、追体験しながら新たな地域資源の発掘と地域再生を考えるきっかけをつくることを目指しました。



——地域資源の発掘・再評価はどのように行っているのでしょうか。

矢口：まずは踏査を行うことです。例えば山形県の取り組みにおいては、取り上げた人物の歩いた道のりを自転車に乗り、歩くことにより、初めて見えてくるものや気付くこともありました。観光のパンフレットに載っている情報にも間違っていることがあるのに気づきます（笑）。踏査より導き出したアイデアを行政や観光協会、新聞社に持ち込み、活性化を実践しています。

——他地域で活性化を考えた場合の可能性や課題があれば伺いたいです。

矢口：活性化のきっかけになる魅力はどの地域にも必ずありますが、地方に住む人は当たり前のも
のと思っています。それらに対して勇気や誇りを持って貰える活動や情報発信が必要となってきま
す。また、どの地域においても、「スポーツ」、「自然、歴史・文化、人物」、「勉強会/啓発活動」は、
十分活用可能なものと考えています。

——情報発信やその他活性化の活動を行う上で、「コツ」はあるのでしょうか。

矢口：ありませんよ（笑）。情報発信のコツがあるとすれば、「発信し続けること」と「自慢をしないこと」です。

また、継続性を考慮すると、地元の人が押し付けを感じないよう「勝手連的」に、そして「遊び感覚」
で取り組むことが必要と考えています。「小さな親切、大きなお世話」と思われないようにすること
が重要です。活性化を実現するには実践する側の覚悟（投資など）も必要でしょう。

——活動の上で「NPO 法人」であることの意味や優位というものはやはりあるのでしょうか。

矢口：他分野との連携をする上で NPO の存在・立場は重要で、任意団体では何かにつけて限界があ
りました。また、NPO であると自治体にも気軽に入っていただけるメリットがあります。法人を立ち上
げるには相応の実績を積む必要もありました。

また余談ですが、活動を続ける中で、内閣官房からまちおこしのスペシャリスト（地域活性化伝
道師）に任命されたことも、良い循環をもたらしています。それにより、山形県内自治体からまち
づくりの基本構想計画の依頼を受けることにつながりました。

——貴重なお話をありがとうございました。ランドスケープアーキテクトに持って欲しい考え方な
ど、いただければありがたいです。

矢口：まちづくりのような地域の媒介としての役目を果たすには、目先の仕事から一歩引いた立場
で全体を俯瞰して眺められればと思います。また、物事に対する幅広い好奇心を持って行動に移さ
れることを期待しています。